

平成28年度 長野県須坂商業高等学校 学校評価表(年度末評価)

(%)

A 十分 B おおむね十分 C やや不十分 D 不十分

学校教育目標	重点目標(中・長期的目標)	A	B	C	D	総合評価
○希望に満ちた積極的な人間の形成を目指す。 ○何ごともやり抜く気力・体力を養う。	1. 地域から信頼される学校づくりを推進する。	39.3	60.7	0.0	0.0	・須坂商業高等学校最後の年となり、3年生は有終の美を飾れるように取り組み、須坂創成高等学校商業科は1期生・2期生ともに須商の伝統を継承し、総合技術高校としての新たな学びをすすめ、1年間をたいへん落ち着いた学校生活を送ることができた。しかしながら、年次統合で2つのキャンパスに行われていることなどまだまだ課題が多いのが現状である。昨年度同様、学校評価表の成果と課題の集約はこちらに一文化してまとめた。須坂商業は90年の歩みを閉じたが、須商の伝統を継承して須坂創成3年目の完全統合に向けて取り組みたい。
	2. 生徒の主体的な学習活動を推進する。					
3. 生徒の職業意識を高め、キャリア教育の充実を図る。						
	今年度の重点目標	A	B	C	D	成果と課題、改善策・向上策
○豊かな品位ある誠実な人格を養う。	○自己有用感をもち、主体的に社会に参加しようとする姿勢を育成する。(中長期目標123に対応)	35.5	64.5	0.0	0.0	・生徒は落ち着いた学校生活を送っており、須商および創成の商業科として学ぶ事を通して自信を持つことができている。 ・他学科の行事への参加や学科連携を通して、総合技術高校としてのキャリア教育に取り組んでいる。 ・2年生ではMOS(パワーポイント)試験の全員合格を2年連続で成し遂げることができ、高度資格取得の意識も向上しつつあり、今後も継続していきたい。 ・2年目の創成の農・工の生徒も加わる須商・創成マーケット2016は大きな利益をあげることができ、マーケット役員の頑張りを称えるときにもさらに大きな意義ある総合技術高校の取組みとして工夫して継承していきたい。 ・キャンパスが別という事が依然大きな障壁となっており、完全統合までは課題も多くさらに検討・工夫が必要である。 ・くますぎクラブは地域に出店することが年間30回程度できた。
	○自分を大切にするとともに、他者を思いやることのできる人権意識を涵養する。(同じく1に対応)	38.7	58.1	3.2	0.0	
	○生徒の希望する進路実現につながるキャリア教育の推進を図る。(同じく23に対応)	45.2	54.8	0.0	0.0	
	○基礎学力の定着と高度資格取得等をめざすことにより、学力の向上を図る。(同じく3に対応)	32.3	67.7	0.0	0.0	
	○須坂商業の伝統を須坂創成に継承し、地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。(同じく1に対応)	45.2	51.6	3.2	0.0	

領域	対象	評価項目	評価の観点	A	B	C	D	成果と課題、改善策・向上策
教	学習指導	○基礎学力の充実	・一人ひとりの生徒に対してゆきとどいた学習指導がなされているか。	38.7	61.3	0.0	0.0	・授業アンケートを年2回とりながら、生徒の意見や気持ちを組み込みながら生徒一人一人に応じた学習指導がなされた。 ・理解不足の生徒には時間外の補習で対応してきめ細かい指導を心がけた。 ・家庭学習の時間を持つための取組みはまだ不十分であったが、研究室に質問に訪れる生徒の姿も増え、考査前の補習、検定に向けた7時間目授業なども意欲的に取り組まれ、資格取得など目標を明確にしながら意識の向上も見られた。 ・検定カレンダーの作成、考査範囲のワンポイントアドバイスは一昨年より引き続き実施し、生徒が検定や試験勉強に取り組むやすい環境づくりができた。 ・タブレットや電子黒板などのICT機器を常時利用する先進的な取組みが限られた科目とはいえ実践され、モデル校3年目の報告書で一定の成果をまとめる事ができた。 ・課題研究発表会や産業基礎、総合実践等の授業で、プレゼンの機会をさらに増やし、資格取得学習に加え、言語活動や情報発信力の向上が課題である。
			・学習内容の改善、工夫がなされているか。	32.3	67.7	0.0	0.0	
			・学力補充が計画され、実施されているか。	45.2	54.8	0.0	0.0	
			・家庭学習の時間をもつための取組みができたか。	6.5	51.6	41.9	0.0	
育		○検定前学習の充実	・検定学習をするための組織的、計画的な環境作りができたか。	64.5	35.5	0.0	0.0	
			○須商マーケットでの実習販売	・商業の授業として体系的な取組みができているか。	51.6	48.4	0.0	0.0
			○生徒に合ったコース制の選択	・生徒個人の将来設計に見合ったコース選択がなされたか。	41.9	54.8	3.2	0.0

活動	生徒指導・教育相談	○生活指導の取り組み	・ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上に取り組みえたか。	29.0	67.7	3.2	0.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度から生徒指導係が毎朝、立ち番を継続し、朝の挨拶、遅刻指導を続けた結果、校内での挨拶、身だしなみについては改善がみられ、本年度も生徒指導上の問題行動がほとんどなく、落ち着いた学校生活につながった。 ・ 全職員による巡視、立ち番を本年度も継続的に行うことができ、問題行動の要因となりそうな事案やサインを見落としや外部からの侵入を未然に防ぐことができた。 ・ 支援が必要な生徒に対してHR担任、教育相談担当、スクールカウンセラー、家庭と連携をとりながら柔軟に対応してきたが、年々人間関係で悩む生徒が増加傾向にあり、引き続き丁寧な支援を継続していきたい。
			・ 校則を守った身だしなみ指導ができたか。	16.1	67.7	16.1	0.0	
			・ 日常的・継続的な指導が学校全体で行われたか。	32.3	61.3	3.2	3.2	
		○校内外の巡視	・ 校舎内外の見回りが行われたか。	45.2	54.8	0.0	0.0	
			・ 地域の方の意見・要望に応えられる生徒育成に力を尽くすことができたか。	29.0	71.0	0.0	0.0	
		○教育相談	・ 人間関係がうまく築けない生徒に対して、適切な助言ができたか。	32.3	61.3	6.5	0.0	
	・ 校内の教育相談体制がうまく機能したか。		35.5	58.1	6.5	0.0		
	・ 特別支援教育の理解を深める研修ができ、情報を共有し適切な対応ができたか。		35.5	64.5	0.0	0.0		
	・ いじめにつながる行為を見逃さないなど、いじめの未然防止に努めることができたか。		45.2	51.6	3.2	0.0		
	・ 必要な外部機関との連携をはかりながら、問題を解決できたか。		35.5	64.5	0.0	0.0		
	○家庭との連携	・ 反省指導等で保護者との連絡・協力がなされたか。	48.4	51.6	0.0	0.0		
		・ 教育相談の中で保護者の意向を聞き取った上での取り組みができたか。	45.2	54.8	0.0	0.0		
進路指導	○進路指導体制の充実	・ 係、学年、教科で緊密な連携がとれ、学校全体で生徒の希望に合わせた進路指導が行われたか。	63.3	36.7	0.0	0.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路通信「言祝ぎ」や学年通信が定期的に発行され、生徒・保護者にとって必要な情報をタイムリーに提供できた。 ・ 就職は希望者全員が内定し、進学でも大学・短大・専門学校とも希望者全員の進学先が決定できた。 ・ 夏休み中を中心にインターンシップを実施、将来を見据えたキャリア教育の推進をすすめることができたが、インターンシップの希望者数の増加が課題である。 ・ 来年度は創成に完全統合となるため、就職や進学先の確保が大きな課題であり、様々な機会を通じてさらに企業開拓等をすすめたい。 	
		・ 進路情報の収集・提供が適切になされ、生徒の進路意識を高めることができたか。	60.0	40.0	0.0	0.0		
	○キャリア教育の充実	・ 将来を見据えたキャリア教育の推進と生徒の希望に沿ったインターンシップを行えたか。	40.0	60.0	0.0	0.0		
	○就職先の確保	・ 地元企業との連携を図り、生徒の就職先の確保に努めたか。	60.0	40.0	0.0	0.0		
学域との連携	○公開授業の充実	・ 公開範囲の拡大、来校者の本校に対するイメージアップにつながったか。	46.7	50.0	3.3	0.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業は11月が創成の学校説明会に変わったことから年1回となったが、秋に中学生の学校見学希望もあり、検討課題である。 ・ 須坂創成高校の体験入学として、28日商業科、29日農業科・工業科の連日開催とし、一体感を示すことができた。両日参加の生徒にも対応できた。 ・ 生徒・保護者のアンケート結果から、須坂創成高校に高い興味関心があり、体験授業が有意義であったと感じた生徒が多かった。 ・ 昨年より「須商Now」は内容が一新し、タイムリーに学校生活の情報をわかりやすく発信できて好評であった。 ・ 「くますぎクラブ」は地域との交流として引き続き活躍し、小布施町の食材を元に新たな商品開発をすすめる、活動の場が広がり、ごぼうスープは須坂市認定商品に選定された。 ・ すざか分教室とクラスマッチやマーケットなどで交流することができたが、来年度以降も交流の機会を増やしていきたい。 	
		○中学生体験入学の充実	・ 新校への入学を希望する中学生を広く集め、新校に対する理解を深めることができたか。	53.3	46.7	0.0		0.0
	○学校評議員会の充実	・ 学校の教育活動を十分に説明することができたか。	50.0	50.0	0.0	0.0		
		・ 意見要望に対して改善するように取り組めたか。	50.0	46.7	3.3	0.0		
	○学校ホームページの充実	・ タイムリーな情報発信ができたか。	60.0	36.7	3.3	0.0		
	○生徒の校外活動の充実	・ 地域との連携による生徒の自主活動ができたか。	46.7	53.3	0.0	0.0		
と保護者の連携	○学年・学級PTAの活性化	・ 生徒の学習、生活、進路について十分な論議がなされたか。	30.0	70.0	0.0	0.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回の保護者懇談会を活用し生徒の進路相談や学習、生活について話す貴重な機会となっている。 ・ ミッタシステムを導入し、登録率が90%をこえ、メール連絡網のシステムが整備され、大雪による休校や研修旅行中の生徒動向の連絡などで効果があった。 ・ PTAレクリエーションとして全校でのソフトバレーボール大会やその後の懇親会、学級での懇談会を通じて保護者との親睦が図れた。 	
		・ 学校と家庭との連携がうまくなされたか。	36.7	63.3	0.0	0.0		
	○PTA行事の充実	・ 行事を充実させ、学校と家庭との親睦を図ることができたか。	40.0	53.3	6.7	0.0		
生徒会	○生徒会活動の活性化	・ 生徒の主体的な活動を推進できたか。	40.0	56.7	3.3	0.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卓球部が女子団体でインターハイに出場して、1勝する快挙があったとともにクラブ活動が個人だけでなく、団体競技でも県大会出場が増加し、統合のスケールメリットが現れ、今後の活躍がさらに期待される。 ・ 運動部だけでなく、簿記部・珠算部の全国大会出場や商業系クラブの人数も増え、文化系クラブでも成果が上がった。 ・ クラブ活動は、学科ごとに日程が違いうちが違って、練習の時間が合わないなど課題がある。 	
		・ 委員会活動を計画通りに行えたか。	23.3	76.7	0.0	0.0		
		・ 部の活動が活発に行われたか。	43.3	56.7	0.0	0.0		
		・ 生徒会予算を請求通りに有効に執行できたか。	40.0	56.7	3.3	0.0		